

沖森卓也教授 定年退職記念号

目 次

-
- 沖森卓也先生のご退職にあたって／加藤 睦 3
- 沖森卓也教授 自筆略譜及び主要研究業績 5
- 略歴・研究業績一覧 7
-
- 上代語シク活用形容詞語幹の性質について／于 艶麗 31
- 古代語の「～はつ」について／徳本 文 46
- 『更級日記』における引用構文／鶴田洋子 57
- 八代集の「そらなり」について——形容動詞と和歌（3）／謝 静 68
- 中世における「気」／波木井優子 79
- 『仮名文字遣』諸本系統の再考／岡田 薫 90
- 複合辞の通時的研究——「-からして」を中心に／安 志英 112
- 副詞「まさか」をめぐる／李 知殷 120
- 『浮世風呂』のオノマトペについて／酒井知子 130
- 江戸後期の「依頼表現」「指示・命令表現」等における返答表現について
——「東海道中膝栗毛」を中心に／高澤信子 138
- 『英和对訳袖珍辞書』第三版と第四版との比較をめぐる／肖 江楽 152
- 「故障」と「障碍」から見る日本語の中国語に対する影響／胡 新祥 164
- 和製新漢語の成立における和習・和訳の影響——「理由」を例として／鄒 文君 175
- 自動詞使役形の用法／川端芳子 187
- 日本語動詞接尾語「つく」の意味・用法について／李 静玖 198
- 名詞・形容動詞周辺の漢語における統語的・意味的性質
——「最-」の形をとる語について／町田 互 208
- 現代日本語における漢語接頭辞について／曹 佳楽 220

「音」と「音韻」／阿久津智 233

「放送」の語誌／山下洋子 248

日韓における類義語の音訓反復表現について

— 日日 (ひニチ)、야밤 (夜 ヤ) などを中心に／李 勇九 260

S. R. ブラウンの二つの会話書

— *Prendergast's Mastery System*. (1875) を中心として／木村 一 495 (1)

近代語「浪漫」の成立と変遷／朴 孝庚 484 (13)

明治期における「次第」について／ラナディレクサ デインダ ガヤトリ 470 (24)

複基点の方向を表す後項動詞の意味用法／石 恩京 457 (38)

『源氏物語』の和歌を読む (十)／加藤 睦 273

『狭衣物語』飛鳥井の姫君と〈忍ぶ草〉について／塩見香奈 286

「信夫山」の「紅葉」— 院政期題詠恋歌に関する一考察／長谷川範彰 300

『明暗』雑攷 (一)／石崎 等 314

〈屋根裏〉だけの恋人— 宇野浩二「屋根裏の恋人」論／宇佐川奏子 325

夢野久作「氷の涯」論— ニーナが切り裂くもの／野作浩隆 338

尾崎翠における食— 記号化あるいは物語との相関関係をめぐって／加藤明日菜 353

モチーフとしての満洲移民 (国策)、転向作家としての徳永直

— 「先遣隊」の同時代受容分析／松本和也 368

神西清の散文問題／小林 実 382

饒舌に語らない「肉体」— 武田泰淳「愛」のかたち論／片岡美有季 396

「成る」可能性のない国家— 井上ひさし『吉里吉里人』論／牛 路遥 410

『静かな生活』におけるナラティヴの手法

— 大江健三郎『静かな生活』論／松本拓真 428

書評 小峯和明著「遣唐使と外交神話

— 「吉備大臣入唐絵巻」を読む」／原 克昭 441

新刊紹介 444

彙報・編集後記